

森林やまがた

No.177

2018.9



山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。



目次

山形県林業連携コンソーシアムについて.....2	森の八紹介
森林の香りネットワーク会議の開催について...2	一戸芳樹さん・五十嵐光雄さん.....12
山形県における皆伐・更新施業の手引きについて...3	素材生産システム効率化研修会の開催について...13
東北・北海道治山林道協議会総会・ブロッック会議	最上地域の『やまがた森林ノミクス』
及び政府・県選出国會議員への要請活動について...4	「もがみ木質バイオマス熱利用検討会議」を開催...14
企業助成金による森林整備について.....4	特用林産振興に向けた取組み.....14
やまがた木育講演会&木育カフェを開催しました...5	置賜産木材利用拡大に向けた
フォレスト通信	ホームページの活用について.....15
「夏の暑さにも負けずに...」.....6	新しくなった「天然更新完了基準」の研修会開催.....16
センタートピックス	木造公共建築物等の整備
松くい虫被害の終息を目指して.....7	鶴岡サイエンスパーク施設整備.....17
みどりのページ	「村山地域森の感謝祭」のお知らせ.....18
第11回山形県緑の少年団交流研修大会	「第13回東日本チェーンソーアート競技大会」の
(月山サマージャンボリー)を開催.....8	お知らせ.....18
普及情報	今年も開催！
森林作業道の作設技術.....10	「庄内森とみどりのフェスティバル2018」.....18
森林組合長に聴く.....11	

「もがみ木質バイオマス熱利用検討会議」を開催...14
特用林産振興に向けた取組み.....14
置賜産木材利用拡大に向けた
ホームページの活用について.....15
新しくなった「天然更新完了基準」の研修会開催.....16
木造公共建築物等の整備
鶴岡サイエンスパーク施設整備.....17
「村山地域森の感謝祭」のお知らせ.....18
「第13回東日本チェーンソーアート競技大会」の
お知らせ.....18
今年も開催！
「庄内森とみどりのフェスティバル2018」.....18

(表紙写真は、6月29日に開催した森林・林業・林産業活性化推進研修会)

山形県林工連携コンソーシアムについて

◆はじめに

平成30年6月15日に、山形市内で山形県林工連携コンソーシアムの第1回運営委員会、総会並びに研修会が開催されました。山形県林工連携コンソーシアムは、林業、木材産業、工業、建築関係事業者及び大学・研究機関等の相互の連携による、豊かな森林資源を起点とした新しい技術や製品の開発を目的として昨年9月15日に設立された団体です。

◆運営委員会・総会について

総会に先立って、総会に提案する第1号議案（平成29年度の事業実績及び平成30年度の事業計画について）及び第2号議案（役員の変更について）について運営委員会において協議が行われ、承認されました。その後の総会でも両議案とも承認され、その結果、平成30年度は新たな事業としてスマート林業、建材としての新用途開発、新素材の3つのテーマによる研究会を開催することとなりました。また、新役員として、副会長に、山形県工業会の松村英一会長並びに山形県農林水産部の駒林農林水産部長が選任されました。

◆研修会について

NPO法人ロボットビジネス支援機構(Robins)副理事長の北河博康氏から「ロボットビジネスで森林資源の活用」と地域

の活性化」との演題により御講演いただきました。ごましの国のロボット



戦略や幅広い分野でのロボット活用の現状と事例等をわかりやすく説明いただき、林業などの分野でもロボットの活用を進めるにはどうしたらよいか等の質問にも丁寧に答えていただきました。

◆おわりに

今後スマート林業等のテーマによる研究会を開催する予定ですので、ぜひ御参加くださいますようお願いいたします。
〔県林業振興課〕

森林の香りネットワーク会議の開催について

◆はじめに

県では森林資源を余すことなく活用して地域活性化を図る「やまがた森林ノミクス」を推進しています。木材、きのこ・山菜などのほか、身近で手軽な「森林ノミクス」として、県産木材から抽出されるアロマオイルなどの「森林の香り」の活用を普及するため、平成30年7月5日に、県庁で「山形県森林の香りネットワーク会議」を開催しました。

◆会議について

会議では、はじめに、プロモーター株式会社代表取締役社長の井上賢一氏から「香りビジネスの現状と将来展望について」という演題により、御講演いただきました。嗅覚は、脳の中でも記憶や本能、情動を司る部分を直接刺激するため、他の感覚に比べて別格の存在であり、空間デザインや販売促進、エンターテインメントなどに活用できるとのことで、様々な香りの活用事例を御紹介いただきました。

その後、講演を踏まえて、「森林の香り(アロマ)の活用と可能性について」をテーマに意見交換を行いました。

会場内には各事業者によるアロマ商品を展示しており、各事業者からそれぞれの商品や森林資源活用の取組みについて御紹介いただきました。



県森林組合連合会や県観光物産協会からは、森林資源活用や、販路開拓の事業について提案がありました。アロマのピールといった新たな製品開発に話題が及ぶなど、会議は盛会のうちに終了しました。その後も参加者の情報交換や報道関係者の取材で、会場は熱気冷めやらぬといった様子でした。

◆おわりに
今後は、機会を捉えて、アロマ製品の展示等による普及を行っていく予定です。
〔県林業振興課〕

山形県における 皆伐・更新施業の手引きガイド

◆はじめに

県内の森林は、戦後植栽された人工林が成熟し、本格的な利用期を迎えています。各地では、大型集成材工場や木質バイオマス発電施設等の設置・稼動が進み、これから益々、県産木材の需要の増加が見込まれるなど、森林・林業・木材産業を取り巻く状況が大きく進展しているところです。

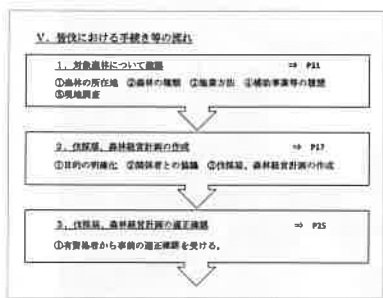
県では、森林資源の循環利用と再造林を推進していくためには、森林所有者と伐採事業者、造林事業者等との連携・協力が必要と考え、森林の皆伐と更新のルールブックとして、「山形県における皆伐・更新施業の手引き」（以下「手引き」）を作成しましたので紹介します。



県が作成した手引き書(表紙)

◆内容について

手引きは、県内の民有林において林業事業体などが、皆伐施業を行う上で必要な手続きなどを取りまとめたもので、関連する法制度や伐採・更新の計画の考え方、施業前後の報告手順などを記載しました。



手続きの流れを記載

源利用を主目的とする「循環型皆伐（育成林）」、②天然生林の資源利用を主目的とする「循環型皆伐（天然生林）」、③「天然生林について、森林の公益的機能の増進や特用樹林造成など、特定の目的に適した樹種の育成林に転換すること」を主目的とした「育成林化皆伐」④「育成林について、天然生林に転換すること」を主目的とした「天然生林化皆伐」の4

手引
きでは、
あらかじめ森
林の皆伐の目
的を、
①育成
林の資

タイプに分け、更新や確認すべき事項をチェックできるようにしました。

（循環型皆伐（天然生林）後の更新）
第6 循環型皆伐（天然生林）後の更新は、ぼう芽または天然下種による更新としますが、これによりがたい場合は在来種による補植を行ってください。

危険部や一定面積ごとに更新を確保するための伐後の形状、種子の散布状況、母樹の保存等に配慮してください。

- 天然更新における対象樹種・方法・期間は市町村森林整備計画において定める内容に基づいてください。
- 伐採後にササやクサ等が繁殖することが想定される箇所では、補植やこまめな刈出しなどによってすみやかな補植回復を図ってください。
- ぼう芽更新を行う場合には、林齢が高くなるほどぼう芽力が低下することから、伐期は30年程度とし、優良なぼう芽を発生させるため11月から4月の間に伐採することとってください。
- 森林の有する公益的機能の維持及び早期回復並びに森林資源の富みを図ることを目的として、皆伐後の天然更新は、伐後が終了した日を含む年度の翌年度の4月1日から起算して原則3年以内に更新が完了している必要があります。

指針の解説とチェック事項を記載

また、「山形県皆伐施業指針」の項目ごとにその内容の解説を入れ、確認すべき点や次の手続きの参照となるページを記載するなど使い易さにも配慮しました。

このほか、天然更新の完了の判断基準となる「山形県における天然更新完了基準」や「伐採事業者と造林事業者の連携等による伐採と再造林のガイドライン」も参考資料として掲載しています。

◆おわりに

手引きは、県のホームページに掲載していますので、林業事業者の皆様は、「山形県 皆伐 手引き」でキーワード検索をして、ダウンロードのうえ是非ご活用ください。

〔林業振興課〕



秋募金期間 9月1日⇨10月31日

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、皆様の自主的な「森林づくり・緑づくり」活動のために役立てていくこととしております。

主に、学校や公園で行う身近なところの緑化や、林業まつりなどのイベントの開催、里山での森づくり、川上・川下地域の交流による森づくりなどの森林整備に役立てられています。

ふるさとの緑の推進に、私たちは取り組んでいます。

公益財団法人 **山形県みどり推進機構**

〈事務局〉〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL.(023)688-6633



東北・北海道治山林道協議会総会・ブロック会議及び 政府・県選出国會議員への要請活動について

◆総会・ブロック会議開催について

6月27日、北海道函館市湯の川温泉ホテル祥苑において、東北・北海道治山林道協議会ブロック会議が開催されました。4月から各道県で検討してしてきた中央への要望事項を、東北・北海道地区全体の要望としてまとめる為の討論が行われました。

この要請事項を検討するこの会議には、林野庁森林整備課山地災害対策室長の佐伯氏、日本治山治水協会専務理事の津元氏も参加していただき適切かつ建設的な助言を頂きました。

その後、北海道渡島総合振興局千葉東部森林室長を来賓に迎え、協議会総会を開催し、平成30年度の活動予算及び陳情活動などの事業計画を採択しました。翌日28日は、渡島総合振興局管内・森町砂原地区の火山地域防災機能強化総合治山事業の現場を視察しました。

◆中央への要請活動について

平成30年度の要請活動は、「平成31年度予算要求に向けて、治山・林道事業拡充・強化」を図るための要望を伝えるもので、7月31日（火）午

前10時から、牧本林野庁長官、本郷次長を始め林野庁幹部職員に対して要請を行いました。

その後、道県ごとに国會議員への要請活動を行いました。山形県選出国會議員（5名）への要請活動は、森林協会事務局で行いました。



◆要請活動を終えて

東北・北海道各道県の治山林道事業の要望に対して、新任の牧本長官、本郷次長から丁寧な応答と共に、今後に掛ける強い意気込みをお聴きし、今後の治山林道事業が着実に進展するものと強く感じた次第です。

〔山形県森林協会〕

企業助成金による 森林整備について

山形県林業公社では、平成二十二年から県と企業、公社が協定を結び、森づくりを通して地域活性化を図る「やまがた絆の森」に取り組んでいます。

公社の「絆の森」には、活動フィールドの提供だけでなく、企業助成金による森林整備があります。

これは、協定企業から費用の一部を負担いただき、林業公社が間伐等の森林整備を行うもので、事業成果として企業の地球温暖化防止や自然環境の保全活動に貢献しています。

これまでの森林整備面積は二百十三haで、二酸化炭素吸収量は約千五百トンとなっています。また、酒田市では大学と連携し、間伐がイヌワシの棲息環境の改善にも活かされています。

この事業は、企業の環境貢献や社会貢献に役立つだけでなく、公社の経営改善にも有益なことから、公社としてはこれからも事業内容の普及に努め、県や関係団体と連携しながら、企業に対して積極的に「絆の森」への参加を働きかけていきます。

〔（公財）山形県林業公社〕

協定森林の名称	協定締結企業等	契約期間と目的
やまぎん蔵王 国定公園の森	(株)山形銀行	1. 目的：森林整備によるCO ₂ 吸収量の確保 2. 場所：山形市・上山市の公社造林地196.86ha 3. 期間：H22年9月～H34年3月
楽天の森	楽天(株) 国立大学法人山形大学	1. 目的：森林整備によるイヌワシの生息環境保全 2. 場所：酒田市の公社造林地45.7ha 3. 期間：H26年7月～H31年3月
ニッサンの森 【朝日白倉】	山形日産自動車(株) 日産プリンス山形販売(株)	1. 目的：森林整備によるCO ₂ 吸収量の確保 2. 場所：朝日町内、Asahi自然観周辺の公社造林地75.48ha 3. 期間：H29年3月～H33年3月

やまがた木育講演会&木育カフェを開催しました

◆はじめに

県は、七月十四日(土)に協同の杜JA研修所で八十名の方から御参加いただき「やまがた木育講演会&木育カフェ」を「やまがた木育」のキックオフイベントとして開催いたしました。



松井教授

◆やまがた木育講演会

『みんなが進めようやまがた木育』と題して、岐阜県立森林文化アカデミー教授の松井勲尚氏に講演していただきました。松井教授は、全国に先駆けた木育の取組みを行う岐阜県において、「ぎふ木育三〇年ビジョン」に関わるなど、中心的な役割を果されており、全国で木育を指導されている方です。講演会ではまず、「日本一メタボな木は何?」といっ

た木に関するクイズを行いながら、

参加者が打ち解けたところで、岐阜県が木育に取り組んだ経緯や「三〇年ビジョン」の策定で重要視した点(長期的に育む、心の教育、つながり)などについて、説明していただきました。また本県のやまがた木育推進方針については、「乳幼児からお年寄りまでが対象」、「やまがた愛の人を育む」、「触れる、創る、知る」、「森は未来からの預かりもの」といったフレーズが、他県にない特徴であると評価していただきました。そして、御講演の後半では、松井教授が開発された木育教材を使い、四く六歳児が取り組んだ事例について、母親や保育士の方の感想を交えて紹介していただきました。松井教授からは、「自分の立場で、どう木育に関わるかを考えること、意識することが大切。

実際に行う行為は、今までと変わらなくとも、大人がどんな願いを持ち木育に取り組むかということが大事。」などのお話がありました。参加者にとっては、今後の活動に向けて、大変参考になったものと思われま

◆木育カフェ

「木育カフェ」の目的は、多様な人の参加と、「やまがたの木育は楽しい」と参加者から感じてもらうことであると説明がありました。

当日は、森林環境教育実践者のほか、乳幼児関係者、木工関係者など幅広い分野の参加者が、四人一組となり講師の声が聞こえないほど、木育について会話を交わしながら、木製小物を作りました。参加者からは「楽しかった。」との感想が多く聞かれ、概ね目的は達成できたものと考えています。

◆おわりに

県では、このキックオフイベントを通して、「やまがた木育」の理解を深めていただくとともに、新たな気付きを持ち帰っていただき、今後の活動の一助となる機会を提供できたものと考えています。

今後とも「やまがた木育」への御理解と御協力をお願いします。



木育カフェで県産ブナ、桜桃のアイスクリームスプーンを作りました。

〔具みどり自然課〕

建設業スーパー任意労災(グループ傷害保険)加入団体



山形建築組合

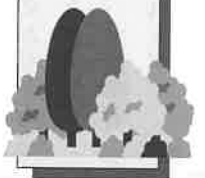
会長 菊池 恵一

事務局 山形市あかねヶ丘一丁目11-24 (株)菊池技建内)

電話 (023) 643-7558

FAX (023) 644-4213

「夏の暑さにも負けずに・・・」



◇はじめに

「夏は暑いものと決まっている」とはいうものの、今年は夏の始まりから容赦なく気温は上昇し、真夏日や猛暑日が続いています。そのような中でも、林業経営学科の学生十八人は、講義や実習に元気に取り組んでいます。今回は、一年生と二期生の学習の様子とともに、卒業した一期生の職場での様子についてもお伝えします。

○講義・実習も順調に進む（一年生）

入校から四か月が経ち、一年生八人は学校、寮生活にもだいぶ慣れてきました。幅広い分野に及ぶ科目に戸惑いながらも、真剣に講義・実習に取り組んでいます。

林業経営学科で学ぶ科目は、「造林・育林」や「森林生態」、「森林計測」、「林業機械」など十六科目に及びます。実習は、講義で得た知識の上に成り立っていることから、特に本学科では、講義と実習のバランスを大切に「知識×技能＝技術」の法則を基本に学習を進めています。

四月に始まった一年生の講義や実

習も順調に進み、森林・林業の基礎知識の習得、下刈りやチェーンソーによる伐採、チルホールをはじめとするさまざまな機械類の取扱いなど、基本実習に熱心に取り組んでいます。



間伐実習(金山町にて) 一年生

○高性能林業機械実践実習(二年生)

七月に車両系建設機械運転技能講習を修了し、二年生は十人全員が大学校で習得する予定の資格等を取り終えました。

これらの資格等があれば、今の県内ほぼ全ての伐採・搬出現場で働くことが可能です。



機械実習(大蔵村にて) 二年生

しかし、就くことができるのと現場で活躍できるのは別のこと。このため機械実習では、それぞれの作業の精度アップと時間短縮をめざして安全第一で訓練を続けています。

現場では二台以上の機械や伐木者と連携しての仕事がほとんどで、伐採から集材、運材へと次の人が作業しやすいやり方を意識することが大切です。

また、合図で確実に自分の意思を他の作業者に伝えることや、猛暑の昼休みの過ごし方、延いては次の日に疲れを残さない夜の過ごし方を考えるなど、少しずつ社会人に近づいてきています。

最上広域森林組合から協力いただいた今回の現場では、卒業して間もない一期生から指導を受け「将来は自分たちで伐採班一班作りたいね」などと頼もしい会話もありました。

○それぞれの職場にて（一期生）

卒業してから四か月が経ち、就職した一期生は全員、暑い中でも元気に仕事をしています。「毎日炎天下で下刈りをしている」、「建築材の加工をしている」。電話や「LINE」で不安ながらも元気に仕事をしている様子うかがい知ると、送り出した担任としては安心します。この学校で森林・林業を学び始め、そして約二年半が過ぎ、今こうして森林整備や木材加工の仕事に取り組んでいる彼らを思うとき、これからもまずは安全第一で、地域の森林・林業を引き継いでもらいたいと願ってやみません。

◇一期生が卒業し、二年間の学科教育が一巡しました。三年目を迎えた学科としてまだ多くの課題はありますが、学校という教育機関の重責をあらためて認識するとともに、「やまがた森林ノミクス」を支える若手技術者の継続的な育成をめざし、さらに充実した学科教育に取り組んでいきたいと思えます。

〔山形県立農林大学校〕

松くい虫被害の

終息を目指して

◆はじめに

本県における松くい虫被害は、昭和53年に山形市で発生し、その後、各地に蔓延しました。これまで、関係者一丸となつて、その防除に取組んできましたが、被害は終息していません。このまま、被害は続いていくのでしょうか。

◆防除の戦略と当センターでの研究開発の状況

一般的な防除の戦略は、マツノザイセンチュウ及びマツノマダラカミキリを殺虫する「駆除」と薬剤散布及び樹幹注入による「予防」に区分されます。被害木の移動制限、周辺松林の樹種転換、健全な松林の育成、抵抗性マツの植栽等も、予防と見ることができます。基本は、周辺松林から保全松林への被害の飛込みを防ぎつつ、保全松林での駆除を徹底することになります。

1970年に、マツ枯れはマツノザイセンチュウの感染によることが解明され、その後、当センターにおいても、関連した研究開発を行ってきました。現在も、使用する薬剤の改良、抵抗性品種の選抜、海岸林の

低コスト育成技術の開発等に取組んでいます。最近では、マツノザイセンチュウの接種検定の強度を高めることで、抵抗性の大きい品種を選抜する精度を、従来の方法に比べて著しく向上させる技術を開発しました(2017年 目で見る研究成果)。

〈これまでの主な研究開発〉

- ・マツノマダラカミキリの羽化脱出時期と発生予察(1992年)
- ・キツツキ類及びポーベリア・バツシアナ菌によるマツノマダラカミキリの生物的防除(1995年)
- ・産業用無人ヘリコプターによる松くい虫被害予防のための空中散布の効果(1996年)
- ・抵抗性品種の開発(1995年から15品種)
- ・庄内海岸における主要広葉樹による復元・改良技術の確立(2007年)
- ・庄内海岸砂丘地におけるニセアカシアの除草剤による駆除方法(2009年)
- ・海岸クロマツ林の健全化に向けた指針の作成(2014年)

◆被害の終息を目指して

9月頃には当年枯れが目立つよう

になりますが、新規の被害発生が止まらないということは、実施した防除に問題のあることが考えられます。このため、新規被害木の発生状況等から、実施した防除についての評価を行ってみることも必要でしょう。また、防除の考え方を改めて確認するとともに、当センターを始めとする試験研究機関の成果を活用することも望まれます。このような取組みによって、できるだけ早い被害の終息が期待されるところです。



県立農業大学校学生による接種検定

なお、当センターの研究開発の成果は、研究報告、成果カード、目録、研究成果などに掲載されており、その一部は当センターのホームページでもご覧いただけます。

〔森林研究研修センター〕

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部

Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 木村大助

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 木村大助

〒990-2473 山形市松栄1-5-41



みどりのページ

第11回山形県緑の少年団交流研修大会 (月山サマージャンボリー)を開催しました

◆期 日 平成30年8月2日

◆会 場 西川町弓張平公園、県立自然博物館周辺

◆主 催

山形県緑の少年団交流研修大会実行委員会（山形県緑の少年団連盟、山形県、西川町、村山地域林業振興協議会、山形県みどり推進機構）

◆参加者 県内の少年団員180名

◆実施状況

今年の山形県緑の少年団交流研修大会（月山サマージャンボリー）は、県内の21の少年団から180名の団員が参加し、月山の懐に位置する西川町の弓張平公園と山形県立自然博物館の周辺を会場に盛大に開催されました。

はじめに、県内3つの少年団による山形県緑の少年団活動発表大会が行われ、自然体験活動や森づくり活動、奉仕活動など、日頃の活動の様子を元気に発表しました。どの少年団も地域性を活かした特色ある活動を行っており、甲乙つけがたい素晴らしい内容でしたが、厳正な審査の結果、遊佐町緑の少年団が最優

秀に選ばれました。

・最優秀

遊佐町緑の少年団（遊佐町）

・優 秀

高崎小みどりの少年団（東根市）

吉野緑の少年団（南陽市）

遊佐町緑の少年団は、飛砂の害から家や畑を守るために先人が地域の海岸沿いに植林したクロマツ林について、その歴史を学びながらクロマツ林を守り育てる活動を行っています。

この活動は、クロマツの植林や枝打ち、下草刈りの他、松くい虫の被害を予防するための葉の注入作業などを地域の先生方から教えてもらいながら行っているほか、クロマツ林の造成に尽力された佐藤藤左衛門、藤蔵親子の家を訪問して残っている文書などを見せていただいたり、クロマツに関する様々な場所を地域の方々から案内していただきながら、クロマツ林についての理解を深めています。そして、10月に行われる学校の学習発表会では、自分たちで作りに上げた劇「あきらめずに人のためになんぼる」佐藤藤左衛門・藤蔵物



活動発表大会の様子

語」を発表するなど、1年を通して地域の大切な財産であるクロマツ林への理解を深めるとともに、地域の方々と共にクロマツ林を守り育てている活動が高く評価されました。

なお、遊佐町緑の少年団は、来年度の全国緑の少年団活動発表大会に向けて山形県の代表として推薦する予定です。今後も更に発展した活動を期待いたします。

午後からは4つのグループに分かれて、ブナの森の探検、ソーセージ作り、魚のつかみどり、水鉄砲作り

をそれぞれ体験しました。

ブナの森の探検は、バスで県立自然博物館に移動し、同園のインタープリター（自然解説員）の案内で、月山の冷たい湧水を飲んだり、サンショウウオなどの森の中の生き物やブナやトチノキの巨木を観察したりしながら、五感をフルに使ってブナの森を探検しました。最後に、月山の雪どけ水が流れる川で冷やした果物ゼリーをみんな味わい、猛暑が続いている平地の気温と森の中の涼しさの違いを肌で感じることができました。



川で冷やしたゼリーを味わう団員たち



みどりのページ



協力しながら行ったソーセージ作り

ソーセージ作りは、弓張平公園の中にある「くんせい工房ほれぼれ」の指導で自家製ソーセージ作りにチャレンジしました。あらかじめ練っておいた豚肉と鶏肉を絞り出し、羊の腸に詰める作業は意外と力が必要で、子供たちにとっては大変だったようですが、班ごとに協力しあいながら腸詰めし、好みの長さのところまでねじってソーセージを形づくりました。そして、弓張平公園の自然の中でネイチャーゲームを体験している間にソーセージは茹で上がり、みんなで仲良く味わいました。手作りのソーセージはとっても美味しかったですよね。

魚のつかみどりは、弓張平公園内のキャンプ場に移動し、川の流れでニジマスのつかみどりに挑戦しました。すばしっこいニジマスを捕まえるのは難しく、始めはみんな苦戦していたようですが、時間が経つにつれて徐々に慣れてきて、最終的にはなんとか全員が捕まえることができました。捕まえたニジマスは、キャンプ場の炊事場でさばいてホイル焼きにしていたいただきました。こちらも自分が捕まえてさばいたニジマスというところで、とっても美味しかったですよね。

水鉄砲作りは、県民の森森の案内人の会の指導により、竹を使って水鉄砲を作りました。最初にフラフープを使ってアイスブレイキング(初対面どうしが打ち解けるために行うレクリエーション)を行い、班員どうしが仲良くなったところで、自分だけの水鉄砲を作りました。そして、完成した水鉄砲を使い班対抗的あて大会を行いました。あて大会の景品は豪華(?)なお菓子ということもあり、みんな真剣に的をめがけて水を噴射し、他地区の団員とも交流を図りながら楽しむことができました。

以上のように、今回は4つのプロ



参加者全員での記念撮影

グラムを用意しましたが、いずれの活動も大変好評で、参加した少年団員はみんな大満足の様子でした。また、今年の夏は例年にない猛暑でしたが、高原に位置する弓張平公園や県立自然博物館は平地より涼しく、自然のクーラーの中で快適に活動を行うことが出来ました。最後にりましたが、大会の運営に際しご協力いただいた関係者の皆様に對し、厚くお礼申し上げます。(公財)山形県みどり推進機構

「緑の募金」にご協力いただいた企業・団体のみなさま

(H30. 6. 1~7. 31)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

(株)阿部製材所、(特養)飯塚なごみの里、小菅野代自治会、(株)斎藤建設、(株)ザオー測量設計、(株)スペースパーツ山形、(株)中幸製作所山形工場、(株)テトラス、出羽庄内森林組合、道の駅川のみなと長井、村山ローズロータリークラブ、(公社)山形県観光物産協会、(公財)やまがた健康推進機構、山形県農業共済組合、山形県農業協同組合中央会、(一財)山形県理化学分析センター、山形商工会議所、山形東亜D K K(株)、(協)山形木造住宅プレカットシステム (敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

普及情報

森林作業道の作設技術

〔路網選定から作業道の作設まで〕

箇所効果的に作設している

かなければなりません。

路網計画は、伐木造材や集材等で

使用する機械の種類や規格を検討し、

林内での作業効率を最大となる配置

にすることが重要です。一方で、崩れ

にくい地形や現場の土質を考慮した

路網配置に留意する必要があります。

◆表土ブロック積み工法

県では、現地発生材を有効活用す

る方法として、表土ブロック積み工

を推奨しています。

表土ブロック積み工法では、①心

土を30cm程度に盛り立てて締固めを

行い、②その心土の盛土のり面(谷

側)に表土を載せます。その後、③

次の心土(30cm程度の層)をその内

◆はじめに

高性能林業機械や作業システムを

効率的に運用し、林業の採算性を向

上させるため、山形県では簡易で丈

夫な森林作業道の作設オペレーター

の育成を進めています。

森林作業道は、森林整備、木材の

集材・搬出のために継続的に用いる

ことから、作設経費を抑える一方で、

繰り返し使用に耐える必要があります。

このため路体は堅固な土構造

が基本で、将来的にも森林施業で使

えることが前提となります。

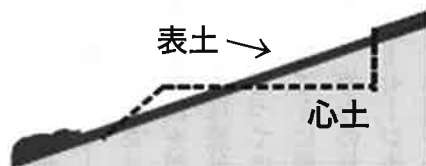
◆路網の選定

森林作業道は、将来的な森林施業

を見据えた路網計画を作り、安全な

施行手順

※長野県作業道作設マニュアル p45
表土を利用した工法の例(表土積工)を一部改変



1. 地山の枯葉・落ち葉の層を取り除く



2. 盛土法尻部分を段切して転圧する



3. 表土と心土が交互になるよう盛土面に積み重ね転圧



4. 地土の利用の内側に心土を移動して転圧する



〔森林研究研修センター〕

側に乗せて締固めます。盛土のり面の表面は表土を主体に心土を交互に積み重ねた状態となることから、早期の緑化が期待されます。

※1表土 有機物や腐植が多く含まれる部分(A0層、A層)

※2心土 鉱物質の多い表土の下

の部分(B層)

森林作業道の作設に当たっては、

計画や施工に携わる作設オペレータ

ーが現場条件を踏まえて進めること

が重要です。このため、森林研究研

修センターでは、作設オペレーター

を対象とし、県の指針に適した森林

作業道作設の研修を行っています。

森林作業道作設の研修の受講を

検討している方は、森林研究研修セン

ターまでお問い合わせ下さい。

人と森林の共生をめざして

確かな技術で地域に根ざした測量・設計を



調査・測量・設計・補償コンサルタント

株式会社 ザオー測量設計

〒990-2432 山形市荒橋町二丁目21-10
TEL: 023-641-7811 FAX: 023-641-7816
<http://zaosdc.co.jp/>

「森林組合長に聴く」第9回は、

西村山地方森林組合代表理事組合長
荒木俊男氏と、森林研究研修センタ
ー古川和史所長との対談です。

【対談者の紹介】

○西村山地方森林組合
代表理事組合長 荒木俊男氏
西川町在住 組合長10年



事業は林産型に転換していく

所長…組合長として、この10年間の
森林組合の発展について、どのよう
に考えておられますか。

組合長…組合長になった頃、収入の
76%を森林整備部門が占めており、
販売部門の取扱いは4700㎡で、
全体の13%でした。成熟期に達した
人工林が増加傾向にあるため、事業
は林産型に転換していく必要がある

ということ、やってきました。そ
の結果、昨年度は2万㎡の取扱いと
なり、販売事業全体では33%を占め
るまでになりました。

相談したいところ組合員であること

所長…組合を経営するうえで
の信念などを教えてください。

組合長…赤字を出さないこと、利益
は、組合員、労務班員、職員に配分
すること、育てる林業から使う林業
への転換です。組合員が事務所に来
たい、相談したいという森林組合で
あることを心がけています。

機械は増やしていきたい

所長…4年続けて1500万円前後
の純利益が出ており、安定した経営
をされていると思います。それを資
本装備に回すような考え方もあるの
かと思えますが。

組合長…現在、フォワーダが2台、
グラップル付バックホウが4台あり
ます。作業道開設は、バックホウを
リースで借りています。今年はプロ
セッサ1台を買う予定です。

所長…今の生産性は、5㎡/人・日
くらいでしょうか。

組合長…間伐で4㎡、皆伐で5㎡で
す。プロセッサを使ったときにど
うなるか。買って馴らしてみ、増
やしていかなければと思っています。

所長…機械は生産性が上がりますが、
まとまった量を出さないと駄目なよ
うです。路網と機械の関係も重要か
と思います。生産性のアップを目指
して試してみてください。

木材供給の目標は3・5万㎡

所長…木材の供給先はどうなってい
るのですか。

組合長…A材は地元と村山管内です。
A材の売り先には困っています。
所長…協和木材(株)はどうですか。
組合長…B材は協和木材(株)に出して
います。森林組合の中では一番多く、
年間4000㎡くらいになります。

所長…いわゆるC・D材、発電向け
はどうですか。
組合長…大江町からはNKCながい
グリーンパワー(株)、西川町からは村
山のやまがたグリーンパワー(株)へ出
しています。最近は上山市の(株)荒正
にも出しています。

所長…A材の売り先を探す必要はあ
るかもしれませんが、AからD材ま
で出せる状態にあるということでは
ない。今後の目標はありますか。

組合長…今、森林組合系統全体で森
林業山村未来創造運動を展開中で
す。それを踏まえて、間伐材で2・
5万㎡、主伐材で1万㎡の計3・5
万㎡の目標を立てています。

所長…この目標は、現在の技術班員
の人数で対応するという考えですか。
組合長…今年は労務班の新規採用が
4名でした。一人は農林大学校、あ
とは一般の募集です。通年の若い人
を増やしていくのが、これからの課
題です。待遇改善もしながらやって
いきます。

森林組合に対する期待は大きい

所長…県では平成32年度に60万㎡ま
で生産量を増やしたいという考えが
あるのですが、増産の要望に対して
はどう答えていけるでしょうか。

組合長…要望に対しては、路網と資
本装備の状況を踏まえながら、とい
うことになります。系統全体で増や
していくのが大事で、林産事業を中
心としてやっていない森林組合につ
いては、県森連で育成していくこと
も必要でしょう。

所長…西村山地方森林組合は、米沢
地方森林組合に次いで組合員所有の
森林面積が大きい組合なので、期待
は大きいと思います。経営目標を上
回るよう、体制整備を進めていただ
くようお願いをしたいと思います。

平成30年5月14日 森林組合にて
対談全文はセンターホームページで
「森林研究研修センター」

森の人紹介

安久津八幡山を守る会

代表 一戸 芳樹さん

高島町で森づくり活動を展開されている「安久津八幡山を守る会」代表、一戸芳樹さんをご紹介します。

一戸さんは、安久津八幡神社の宮司を努められており、お忙しい宮司の傍ら、安久津



八幡神社周辺で、「安久津八幡山を守る会」の代表として、平成

14年の会設立以来16年にわたり森づくり活動を続けられています。

高島町はマツタケの生産地であり、アカマツが多い町ですが、松くい虫の被害が拡大し、安久津八幡山も大きな被害を受けました。

安久津八幡山を守る会では、こうした状況を受け、置賜地域でいち早く松くい虫防除講習会を開催するなど、松くい虫被害の拡大防止に尽力されております。

また、被害木を使って、地元の中学生や企業の参加を得てチップ歩道の整備やイス作りを行い、地域交流

と環境保全活動の重要性を普及しております。



こうした功績が認められ、今年度山形県森林・林業

功労者の県民参加の森づくり部門を受賞され、6月2日のやまがた森の感謝祭で表彰されました。



一戸さんに今後の森づくりへの意気込みをお伺いしました。

「安久津八幡山を守る会の高齢化が進んでいます。今後は会員の若返りを図り、地元企業等とも連携をさらに強化しながら継続して森づくり活動を続けていきたい。」

一戸さんには、置賜の森づくり活動の第一人者として今後のさらなるご活躍を期待いたします。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

地域の森やみどりをを守る

樹木医 五十嵐 光雄さん



今回は庄内を拠点にみどりを守り育てる活動に幅広く関わっております。

近年は緑地や庭木の管理、樹木医・松保護士、森づくりボランティアの事務局、NPOの理事など、多岐にわたる業務を毎日忙しくこなしておられます。若い時は県外の緑化関係会社にお勤めでしたが、昭和51年の酒田大火を機に、地元酒田の緑地や公園の設計・管理業務を先導する造園技術者としてUターンされ、以後、酒田市役所の都市計画課、土木課、農林水産課等を歴任された、緑地・みどりのスペシャリストです。

酒田市役所を退いた後は、庄内空港緩衝緑地の管理運営全般を担う立場となり、利用者・一般市民の方々と緑地との橋渡しを続けておられます。その中でも、『みどりの体験工房』は今年で9年目になる人気講座です。

受講者の方に緩衝緑地の樹木の紹介や、木や森の四方山話をわかりやすく語ったり、樹木の剪定や管理作業等を実体験して頂いたり毎回工夫をこらしたメニューで、楽しくためになると大変好評とのことでした。

また、最近では『ツリークライミング体験会』も企画・開催し、子どもたちや親たちに森や樹木と楽しく触れ合う場も提供しているそうです。

一方で、樹木医、松保護士としても精力的に活動しており、樹勢の衰えた樹木の診断や治療、松枯れ予防薬剤の樹幹注入、森やみどりに関する環境教育、マツ材線虫病DNA判定検査等で県内を飛び回っています。

松くい虫被害に関しては、「松枯れは伝染病」という認識は世間に浸透している、という関係者の感覚とは少し違う思いを実感しているそうです。「松枯れ」に罹った松を伐採したまま放置している現場に遭遇したり、そもそも松が枯れること自体に興味がない方も多いそうで、松くい虫に関する認知度の低さとそれを痛感し、一般市民への強力なアピールが必要と考えているとのことでした。

地域の森とみどりをを守る活動に尽力されている五十嵐さんの更なるご活躍に期待します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

素材生産システム効率化研修会の開催について

◆はじめに

村山総合支庁では、「やまがた森林ノミクス」に掲げている素材生産量の目標達成に向け、森林組合など管内事業体を対象に、現場での作業工程の改善などによる生産性の向上を目指し、平成二十九年度から素材生産システム効率化研修会を実施しています。2年目となる今年度は東根市森林組合を対象に開催しましたので、その概要を紹介いたします。

◆事業内容

研修会は七月十日、十一日の二日間の日程で現作業システムの検証（現地調査）と研修会の二部構成で実施しました。

講師には、素材生産の先進的な事例のノウハウを熟知し、全国各地で生産性向上の技術指導を行っている日本林道協会事業部長の小原文悟氏をお迎えしました。

1 現作業システム検証(現地調査)

初日は小原氏が森林組合の経営内容や事業規模、保有する機械、作業班数、班員数、森林経営計画の有無などを聞き取りしたのち、現場に赴いて調査となりました。現地では、

森林組合の担当者から作業道の配置や開設手順の説明を受け、実際に作業道を踏査しながら地質の特徴や開設に当たっての留意点などについて指導を受けました。その中で、効率化のためには「選木は作業者に任せる」「木に目印は付けない」「かかり木の恐れのある木は伐採しない」「出荷先に応じた造材規格」等の改善すべき点について直接指導いただきました。



初日の現地調査の状況（左から2人目：小原氏）

- 場所 東根市大字関山地区
- 作業内容 搬出間伐

● 林況等・林齢四十、五十九年生

- ・ 面積 六ヘクタール
- ・ 作業道新設 七七五m
- ・ 搬出量（予定）四百m

2 研修会

2日目の研修会では、生産性の向上を図るうえで課題解決の具体的な考え方や改善を図るためのインフラ整備のあり方、県内外の原木マーケットの現況と事業体の役割等についての講義を受けました。



2日目の研修会(講義)の状況

区分	作業システム	路網密度	人工林面積推計
緩傾斜地 (0° ~ 15°)	車両系作業システム	100m/ha以上	21% 上
中傾斜地 (15° ~ 30°)	車両系作業システム 架線作業システム	75m/ha以上 25m/ha以上	38%
急傾斜地 (30° ~ 35°)	車両系作業システム 架線系作業システム	60m/ha以上 15m/ha以上	16%
急峻地(35° ~)	架線系作業システム	5m/ha以上	25%

資料：全国森林計画(平成28年5月)
森林資源モニタリング調査

そのあと、現地において土場での作業の改善点や作業道の配置、作設する際の丁寧な締固め作業と路肩の状態に応じた補強策などを指導いただきました。

これら現地での留意点は、高性能林業機械を用いた工程の有無にかかわらず、現地作業の責任者として作業の効率性や安全性を確保するうえでは常に配慮すべき内容であり、どの現場においても参考になる内容であることから、受講生にとって実りの多い研修となりました。

- 場所・室内研修 西原公民館
- ・ 現地研修 初日と同じ
- 参加者 二十三名

◆おわりに

東根市森林組合では、今回小原氏に指導いただいた内容を現地に適合させて作業の効率化をさらに進め、作業システムの改善を図ってまいります。

村山総合支庁では、引き続き事業体を対象とした生産性の向上を図るための研修会等を開催し、村山管内全体での素材生産量の増大を目指してまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

最上地域の『やまがた森林ノミクス』 「もがみ木質バイオマス熱利用検討会議」を開催

◆もがみ薪プロジェクト推進事業

最上地域は、県内の木質チップポイラーの八割以上が設置され、木質バイオマス熱利用の先進地域となっています。

最上総合支庁では平成29年度から「もがみ薪プロジェクト推進事業〔第2期〕」に取組んでおり、林地残材や低質材の有効利用の推進、製造過程で無駄なエネルギーを使用しない薪の利用拡大、災害等による停電時にも熱を得ることが出来る薪ストーブ等の普及を行っています。

◆木質バイオマス熱利用検討会議

本検討会議は、薪利用の拡大等に向けて、行政や森林組合、バイオマス関係事業の団体等が連携し、課題解決に向けた協議や、今後の活動の方向性について検討しています。

今年度の1回目の検討会議を、七月十八日(木)に開催しました。

はじめに、山形自然エネルギー株式会社 代表取締役 山田幸司氏から「バイオマスの現状と課題について」と題し、最近の木質バイオマスの動向、木材産業の現状、再生可能

エネルギーなどについて話題提供していただきました。

その後の意見交換では「薪の需要は伸びているが、薪を供給できない」「薪利用者は薪の入手に不安を抱いており、入手先、価格などの情報提供が必要」、



会議の様子

最近、山との繋がりが少ない薪利用者が多い。利用者が自ら薪を調達できる場所の提供が必要」等の意見がありました。

◆おわりに

最上地域では大型集成材工場や木質バイオマス発電施設等の整備が進み、今後、木材の大幅な需要増加が見込まれており、森林資源を多様な用途に振り向け無駄なく有効に使うことが求められています。引き続き関係者と連携しながら、取組みを行っていききたいと考えています。

〔最上総合支庁森林整備課〕

最上地域の『やまがた森林ノミクス』 「特用林産振興に向けた取組み

◆きのこ産地強化コンソーシウム

最上地域のきのこ生産は県全体の約七割を占め、県内はもとより全国でも有数の産地になっています。しかし、震災による風評被害などの影響を受け、きのこの生産量は近年、減少傾向にあります。このため、最上総合支庁では、生産振興と産地強化に向け取り組んでいます。

◆きのこ産地強化コンソーシウム

七月十二日(木)に最上地域のきのこ生産組合の代表者、JA関係者、市町村担当者による「もがみきのこ産地強化コンソーシウム検討会」を開催しました。検討会では、生産動向や施設整備への支援制度、栽培時の害虫対策などが情報提供されました。また、

生産者の高齢化や若手生産者の育成、栽培資材の有効活用策などについて意見が交わされました。



コンソーシアムの様子

◆きのこ産地強化研修会

七月二十日(金)に「もがみきのこ産地強化研修会」を開催しました。この研修会には、きのこ生産者など十六名が参加し、きのこ栽培における農業生産工程管理(GAP)について学びました。

講師の農事組合法人割野きのこ組合代表理事の小林学文氏からGAP認証のポイントやリスク評価のルール作りのほか、GAP認証による経営改善効果などについて講義していただきました。



研修会の様子

◆おわりに

県では、今後も関係者と連携し、更なる産地強化を図り「きのこ王国もがみ」の地位確立に向け取り組んでまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕

置賜産木材利用拡大に向けた

ホームページの活用について

◆はじめに

置賜総合支庁では、やまがた森林ノミクスに呼応し、置賜地域の森林・林業を取り巻く様々な課題に対応するため、置賜地域林業プロジェクト会議を設置し、平成28年3月に作成した「置賜地域の林業振興の展開方向」に基づく様々な取組みを行っております。

木材利用拡大の検討の中で、川上から川下までの木材に関する需給情報の共有化を図っていく必要があるとの意見が多数出されました。

このため、需給情報の共有化に向け取組みましたので、その内容について報告します。

◆取組内容

情報共有の場としては、ホームページを活用することとし、①立木、②原木丸太、③製材、④製品について、提供者側・使用者側両方向からの情報を可能な限りリアルタイムで発信することとしました。

ホームページについては、『置賜「地材地住」ネットワーク』のホームページを活用させていただくこと

にしました。関心がある誰もが閲覧しやすいよう、当ネットワークのホームページのトップ画面に「置賜の木の需給情報」を新設し、この「立木情報（供給）」から「製品情報（需要）」の8項目のうち知り得たい情報を選択することで、簡単に閲覧できるようにしました。



【ホームページトップ画面】

また、情報は、地材地住ネットワーク会員が各自で更新できるため、新しい情報の入手が可能となります。なお、木材や製品の取引はホームページ上ではできませんので、連絡先

情報提供先	用途	産地	材種	伐採	積置	積置した日の及び積置	積置の品質	積置量	積置日	積置場所
置賜総合支庁森林整備課	通作材用	クルミ	天然(4年)	黒檜	—	特1等	その他	20%以下	黒	黒
	通作材用	クルミ	天然(4年)	黒檜	—	1等	その他	20%以下	黒	黒
	通作材用	クルミ	天然(3年)	黒檜	—	1等	その他	20%以下	黒	黒

積置量	長さ	枚数	その他				
			緑色色調	赤色色調	白木	虫食	
30×410	910	10枚	褐色	黒	黒	黒	黒
40×610	710	5枚	褐色	黒	黒	黒	黒
50×410	610	5枚	褐色	黒	黒	黒	黒

木材の産地情報		積置場所	積置申請	備考
所在地	積置場所	積置場所	積置申請	
山形県米沢市入田沢	不明	000円/枚～	2019.03.31	すべて合法材 炭色なし パルプ入り可
山形県最上郡最上町	不明	000円/枚～		
山形県小国町	不明	000円/枚～		

【木材の需給情報(例)】

◆おわりに
置賜の木の需給情報は、今年8月下旬から発信しています。このような取組は初めてであり、今後、利用者や閲覧者の意見に耳を傾けながら改善を図り、実用性を向上させて参りたいと考えております。置賜管内の関係者のみならず、多くの方々に幅広く御覧いただき活用していただければ幸いです。

なお、ホームページアドレスは、<http://www.okiamanoki.jp/>になります。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

「木の家」のぬくもりを最先端の技術で住まいの品質と安全をサポートします。

新しくなった「天然更新完了基準」の研修会の開催

…市町村の担当者とともに…

◆開催の経緯

平成28年5月の森林法の改正により、平成29年4月以降、伐採及び伐採後の造林の計画の届出を行った方は、事後（造林を完了した日から30日以内）に市町村長への伐採及び伐採後の造林に係る森林の状況の報告を行うことが義務づけられました。

これに基づき、市町村は伐採後の更新の完了を確認することになっております。また、県では6月に「山形県における天然更新完了基準について」を一部改正しました。

こうしたことから、置賜総合支庁では、伐採届出制度の実務を担う管内市町村の林務担当者とともに、新しい天然更新完了基準に関する現地研修会を開催することにしました。

◆天然更新完了基準のポイント

- ① 更新樹種として高木・亜高木で樹高1.2m以上の稚樹、幼樹、若齢木、ぼう芽枝等を数える
- ② 更新樹種の密度はha当たり2500本以上
- ③ ①、②の条件を満たす区域面積が更新対象地全体の6割以上



研修会の状況



④ 更新調査は更新対象地内の面積に応じた数の標準地を設けて行う

⑤ 更新樹種の生育状況や生育可能性を確認し、更新の完了、未了、完了に必要な条件等を判断

◆研修会の開催

研修会は、平成30年6月28日（木）に高島町安久津地内の伐採跡地で開催しました。当日は、森林研究研修センターの研究員を講師に迎え、管内8市町村の林務担当者のほか県庁林

業振興課や他総合支庁の担当者など総勢23名が参加し、3班に分かれて更新樹種の見分け方、標準地の設置、確認や判断方法など具体的な手順を学びました。参加者からは、実際に現場で高木等の更新樹種を見分けることや更新完了の判断を行うことが難しいとの声が多く、まずは、配布した資料（右図）等を参考にしながら、現場での経験を重ねることが重要であると実感しました。

置賜総合支庁では、引き続き市町村担当者等の実務レベルでの支援を行います。適切な伐採・更新を進めてまいります。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

3. コナラとミスナラ

見分けのポイント

① 葉の裏のふちがごくギザギザ。コナラの方がよっぽど小さい。

② コナラは葉柄（葉と柄の葉の部分）がある。ミスナラはほとんどない。

6. イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ

見分けのポイント

① カエデは葉や枝が左右対になってまえている。（対生という。）

② 3~11枚に分かれた葉。

③ ウリハダカエデは、幹がシマシマ模様。（ウリ坊の模様のような。）

資料：更新樹種の見分け方

災害増に
歯止めを!

山形ゼロ災3か月運動

実施期間：平成30年10月1日～12月31日 **2018**

労働災害ゼロをめざして参加しています!

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811

ゼロ災でいこう
ヨシ!!

木造公共建築物等の整備 鶴岡サイエンスパーク施設整備

◆はじめに

平成30年9月、建築界のノーベル賞ともいべきプリツカー賞を受賞した世界的な建築家坂茂氏設計の木材を効果的に活用した宿泊滞在複合施設と全天候型児童施設が、鶴岡サイエンスパーク内(鶴岡市覚岸寺)にグランドオープンします。

◆事業の概要

鶴岡サイエンスパークには、慶應義塾大学先端生命研究所やバイオベンチャー企業などが立地しています。ここにヤマガタデザイン株式会社



(代表取締役 山中大介)が、自然体で過ごす交流と滞在の拠点として、「鶴岡の美しい水田風景に調和する建築」をコンセプトに、坂氏の建築の特徴を随所にちりばめた施設の整備を進めてきました。

◆宿泊滞在複合施設

宿泊滞在複合施設「SHONAI HOTEL SUIDEN TERRASSE」は、共用棟・3棟の宿泊棟・温泉棟(延べ床面積7,500㎡)で構成され。ホテル全体でカラマツLVL等の木材が約700㎡使用されています。

共用棟は、鉄筋コンクリート造の2階建てで、カラマツのジャバラ大屋根構造により、柱の少ない開放的な空間が創出されています。千冊を超えるライブラリーや庄内の味覚を楽しめるレストランバーは、宿泊客以外でも利用することができます。

宿泊棟は、客室数143室、基礎と廊下を鉄筋コンクリートにすることで耐火基準をクリアさせることにより、日本最大級の木造2階建て

ホテルを実現しました。

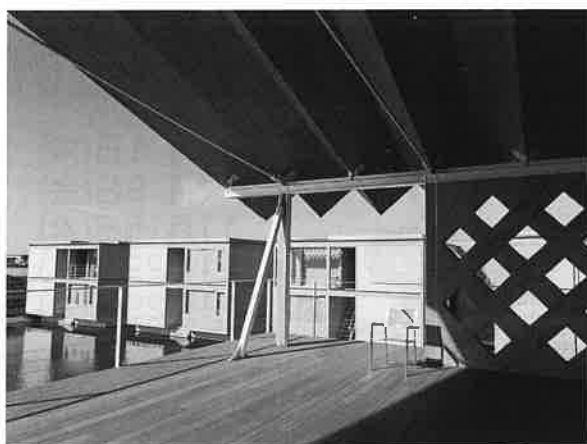
温泉棟の屋根は、フランスの美術館ポンピドゥー・センター・メスで使われている小径材の木組みによる曲線を活かしたドーム型の構造で、施設内部からその美しい模様を眺めることができます。

◆全天候型児童施設

全天候型児童施設「KIDS DOMESORAI」は、地上1階、地下1階のRC一部木造(延べ床面積2,000㎡)で、ドーム型屋根の1階部分には、平成29年度山形県森林・林業再生基盤づくり交付金で、県産のスギやカラマツのLVLが約



133㎡を使用されました。このド



ーム内は、冬でも子供達が自由に走り回ることができます。また地下はサイエンスパークのベンチャー企業が運営する保育園として利用されます。

◆おわりに

今回の整備では、公的資金を導入できる施設については地域材が活用されましたが、それ以外の部分では、優先的な選択肢の一つに入っていたものの、強度、価格、調達期間等の理由により地域材はあまり利用されませんでした。今後、こうした「地域材をもっと使いたい」というニーズにどう応えていくかが、大きな課題です。「庄内総合支庁森林整備課」

「村山地域森の感謝祭」 のお知らせ

緑豊かな自然の恩恵に感謝し、森を守り育てることの重要性を広く訴えるため、「むらやま森の感謝祭2018 in 中山」を開催します。森を愛するたくさんの方の参加をお待ちしています。

日時

平成30年10月6日(土)

午前9時30分から午後1時まで

場所

中山町立豊田小学校 体育館

(東村山郡中山町土橋645)

内容

○村山地域森林・林業功労者の表彰

○森づくり活動

○ヒメサユリの植栽

○会場イベント

中山町特産品振舞い、木育コーナー、林業なりぎり体験コーナー、森のホームステイなど

参加方法

実行委員会事務局

(村山総合支庁森林整備課森づくり推進室)
電話 023-621-8248に

9月20日まで申し込みください。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森林やまがた 一七七号

「第13回東日本チェンソーアート 競技大会」のお知らせ

9月16日(日)・17日(祝)に金山町にある「山形県遊学の森」ぶなの木広場にて、「第13回東日本チェンソーアート競技大会」が開催されます。

16日はメインカービングでテーマは「家族」です。

17日はスピードカービングで限られた時間内で勝敗を決します。

会場内では、地域特産物の販売、木工クラフト、丸太切り、森のコンサート、抽選会などのイベントも用意しております。

多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

〔最上総合支庁森林整備課〕



昨年度の大会

今年も開催! 「庄内森とみどりの フェスティバル2018」

「庄内森とみどりのフェスティバル」が、今年も鶴岡市、酒田市の2会場で開催されます。

フェスティバルでは、木工・ネイチャークラフト、丸太切り等の体験コーナーや、丸太釣り競争、上棟式実演、きのこ汁のふるまい、緑化樹のプレゼントなど、人気イベントを企画するほか、併催行事では、農産物の販売等のブースを用意しております。

今年も多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

鶴岡会場

・開催場所 鶴岡市小真木原公園内

・開催日 平成30年10月13日

・併催行事 つるおか大産業まつり

酒田会場

・開催場所 酒田市国体記念体育館

・開催日 平成30年10月27日

・併催行事 酒田市農林水産まつり

〔庄内総合支庁 森林整備課〕

平成三十年九月一日発行(隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号 山形県森林協会
監修 山形県農林水産部
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円

定価 二八八円

振動障害特殊健康診断並びに蜂アレルギー抗体検査

を実施します!



平成30年11月 1日(木)
11月 9日(金)
11月15日(木)
11月22日(木)
11月29日(木)

真室川町中央公民館 (真室川町大字新町233-1)
アクティー米沢 (米沢市西大通一丁目5-5)
庄内町狩川公民館 (庄内町狩川字大釜11-5)
村山市農村環境改善センター (村山市中央一丁目3-6)
山形市森林総合センター (山形市替所14-2)

お問い合わせは

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部
TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811